

# 1 ICTメディアリテラシーの育成

## 1 ICTメディアの現状と課題

### (1) ICTメディアの利用拡大とコミュニケーション手段の多様化

インターネットや携帯電話等のICTメディアの利用が急速に進展しており、また、ブログやSNS等の新しいコミュニケーション手段が次々と登場しています。今後、さらなるコミュニケーション手段の多様化が予想され、ICTメディアをより主体的・能動的に扱う能力が求められるようになります。

### (2) ICTメディアのパーソナル化とそれに伴う危険性の増大

ICT端末の普及とともに、子どもがICT端末を保有する割合も高まり、子どもの生活におけるICTメディアの位置づけが急速に大きくなる中で、近年、ICTメディアに関係した子どもの事件が多発し大きな社会問題になっています。ICTメディアのパーソナル化により、子どもが、多様な情報に直接接する機会が増大していることから、子どもが自律的に情報を的確に読み解き、判断し、発信できる能力を育成することが急務となっています。

### (3) ICTメディアの特性を踏まえた総合的なリテラシー育成の必要性

ともするとICTメディアがはらむ危険性、マイナスの面ばかりが強調されがちですが、そもそもICTメディアの利活用の進展は、その利便性や、創造力、表現力、コミュニケーション能力を鍛え育む手段としての有用性など多くのプラスの面があるからに他なりません。

そこで、ICTメディアの特性を踏まえ、危険性のみならず、利便性、創造性についても子どもが同時に理解することができるよう、総合的なリテラシーを育成できるプログラムを開発することが、ユビキタスネット時代におけるICTメディアの健全な利用の促進と発展のためには不可欠です。

## 2 ICTメディアリテラシー育成プログラムの調査・開発

総務省においては、こうした状況を踏まえ、今後のICTメディアの健全な利用の促進を図り、子どもが安全に安心してインターネットや携帯電話等を使用できるようにするため、平成18年度に総合的なICTメディアリテラシーを育成するプログラム「伸ばそうICTメディアリテラシー～つながる！わかる！伝える！これがネットだ～」の開発を行い、平成19年度から開発したプログラムを公開し普及を図っています。

### (1) プログラムの対象

中学生になると、携帯電話等のICTメディアの所有率が一気に高まる状況にあります。その利用に当たってはルールやリテラシーを身につけておく必要がありますが、保護者にとっても教えるのが難しい場合もあります。そこで、本プログラムの主たる対象は、小学校5、6年レベルとし、家庭において保護者も一緒に学習できるようにしました。

### (2) プログラムの目標

プログラムの開発に当たっては、①ICTメディアにアクセスし活用する能力、②ICTメディアを主体的に読み解く能力、③ICTメディアを通じてコミュニケーションを創造する能力、といった総合的なICTメディアリテラシーを育成できるものを目指しました。

### (3) 学習項目の選定<ICTメディアリテラシー学習項目>

リテラシーを身につけるために学習すべき事項は数多くありますが、限られた時間の中で効率的に学ぶことができるよう、小学校5、6年レベルで優先的に身につけるべき能力を分析・整理し「ICTメディアリテラシー学習項目」として、次の11項目を選定しました。

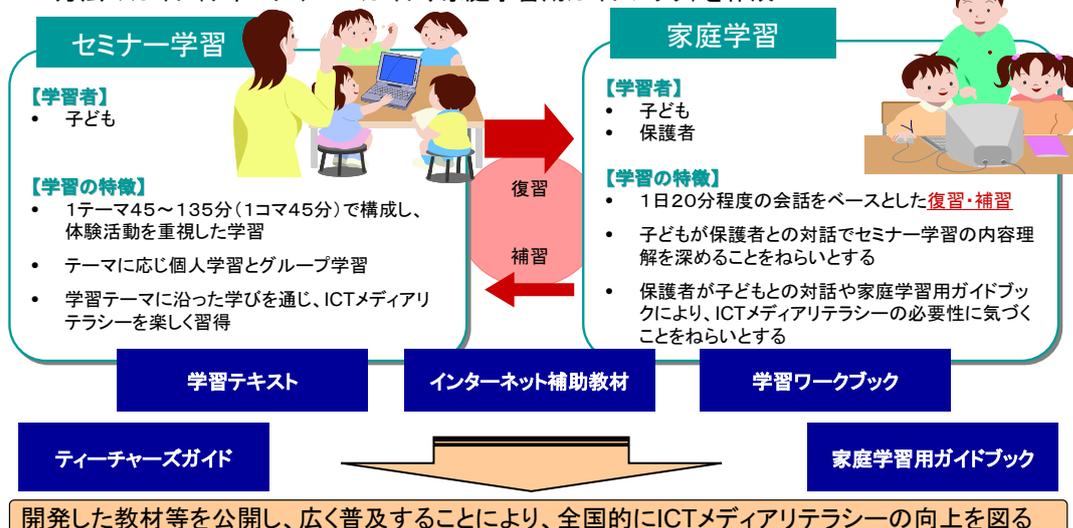
- ① ICTメディアの特性を理解する能力
- ② ICTメディアを操作できる能力

- ③情報を収集する能力
- ④情報を処理・編集する能力
- ⑤情報を表現する能力
- ⑥情報を伝達する能力
- ⑦ICTメディアにおける送り手の意図を批判的に読み解く能力
- ⑧主体的にコミュニケーションする能力
- ⑨コミュニケーションする相手を尊重する能力
- ⑩ICTメディアを安全に使う能力
- ⑪情報の権利（著作権・肖像権）を保護する能力

## ICTメディアリテラシー育成手法の調査・開発

ICTメディアリテラシーを育成するプログラムを開発し、普及を図る。

- ・ 着実な理解のため、セミナーなどでの学習と家庭での復習を組合せ
- ・ 子どもの興味・関心をひきつけるため、体験学習の手法を導入
- ・ 指導者・保護者のICTメディアリテラシーへの理解促進と子どもへの指導のため、具体的な指導方法のガイド(ティーチャーズガイド、家庭学習用ガイドブック)を作成



### (4) 教材等の概要

プログラムの全体的なイメージは、図のようになります。学習の場としては、セミナー学習（学校の授業、地域センターなどで行われるセミナー）と、家庭学習（セミナー学習を受講した子どもとその保護者が自宅等で行う復習・補習）から構成されます。

また、教材等の構成は次のようになります。

- ①インターネット補助教材  
指導や学習を支援するシミュレータ（メールやブログなどの利用を疑似体験可能）を中心としたウェブ教材。
- ②ティーチャーズガイド  
学習テーマごとに具体的な指導方法や指導に必要な情報を収録
- ③学習テキスト  
子ども向けに学習内容の解説やワークシート、インターネット補助教材の操作方法などを収録
- ④家庭学習用ガイドブック  
保護者が子どもと一緒に学ぶために必要な情報を収録（セミナー学習のダイジェスト、学習テーマの解説、保護者として押さえておきたいポイントなど）
- ⑤学習ワークブック  
学習テキストで学んだ内容を家庭で子どもが保護者と一緒に復習・補習できるよう構成

#### (5) 学習テーマの設定

上記の学習項目について、体験学習を通じて総合的に学べるように次の5つの学習テーマを設定しました。

##### ①インターネットで調べよう！

インターネットで効率的に情報を収集する方法や正しい情報を見極める方法、分かりやすい発表の仕方について学びます。

##### ②わくわく！ハラハラ？インターネット

インターネットの特性や便利なウェブサービス、迷惑メールへの対応など、インターネットを利用する上で気をつけなければいけないことを学びます。

##### ③学校のステキを伝えよう！

デジカメでの撮影やブログを使っての情報発信、コミュニケーションを体験し、情報を発信、受信する際のルールやマナーを学びます。

##### ④メールでけんか！どうする？

メールによるけんかのやりとりを疑似体験することで、メールの仕組みや特性、気持ちよく使うためのルールやマナーを学びます。

##### ⑤ケータイをもって街へ出かけよう！

ケータイを持って街におつかいに出かけるというシチュエーションを疑似体験することで、携帯電話の機能や便利な使い方、ルールやマナーを学びます。

#### (6) 開発段階における検証・評価

本プログラムは開発の段階において、有識者による検証・評価、小学校における実証実験、ウェブによる公聴会を経て、内容や実施運営面からの妥当性等について幅広い角度から客観的に確認し、必要な改善を行い、完成度を高めるようにしました。